

修士論文（要旨）
2014年1月

十全的参加を目指す EPA 看護師の 15 か月
ー日本語支援中の自発的言動データの分析からー

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
212J3004
木村淑恵

目次

第1章 はじめに

- 1.1 研究背景と目的 1
- 1.2 先行研究 2
- 1.3 本論文の構成 5

第2章 EPA 看護師（候補者）をめぐる状況

- 2.1 日本の看護師制度 6
- 2.2 EPA 看護師（候補者） 7

第3章 調査概要と分析の枠組み

- 3.1 調査方法 11
- 3.2 調査協力者 12
- 3.3 分析の枠組み 14

第4章 調査結果と分析

- 4.1 言語 16
- 4.2 知識・技能 25
- 4.3 周囲との関係 28
- 4.4 アイデンティティ 32

第5章 総合的考察

- 5.1 調査協力者の十全化を促進あるいは阻害した要因 42
- 5.2 「正統的周辺参加」理論 48
- 5.3 調査協力者を支え続けたもの 51
- 5.4 結論 53

第6章 おわりに

- 6.1 外国人看護師教育への提言 55
- 6.2 今後の課題 58

謝辞

参考文献

巻末資料

【キーワード】 正統的周辺参加, 十全的参加, 実践共同体, アイデンティティ, 自己効力感

はじめに

周知のとおり, 2008 年から受け入れが開始された EPA (Economic Partnership Agreement・経済連携協定) に基づく看護師候補者の看護師国家試験合格率は低い。2013 年 4 月現在, 合格者は全国で 96 名である。彼らの合格後の生活はいかなるものか。稿者が知る複数の EPA 看護師は, 合格後も, 実務を支障なくこなせる日本語能力, 日本の看護に関する知識・技能が十分ではない。また, 周囲とのコミュニケーションにも苦心している。国家試験合格前は公的な支援も行われるが, 合格後は所属病院に一任されるため, 病院, EPA 看護師ともに暗中模索の状態である。

本研究は, 都内の総合病院で働く新人 EPA 女性看護師 2 名 (以下, A, B) の 15 か月間の成長過程に関する事例研究である。研究課題は以下の 2 点とする。

1. EPA 看護師が病棟勤務を続け, 十全的参加を目指す中で, どのような要因がそれを促進したのか, あるいは阻害したのか。
2. EPA 看護師が日本で看護師として存在することを支え続けたものは何か。

先行研究

2008 年以来, 安里・田尻 (2010), 石鍋 (2012), 岩田・庵 (2012) など国家試験に関する研究が多くなされた結果, 日本語研修の充実, 国家試験における特例的対応の実施, 在留期限の延長など, 候補者らへの待遇は改善の方向に進みつつある。一方, 合格後の看護師に関する報告, 研究は管見の限りごく少数である。岡田・宮崎 (2012) は合格後の看護師教育が所属病院に一任される点に言及し, 安里 (2012) は, EPA 看護師の母国と日本の就業に対する意識の違いについて考察した。浅井ら (2013) は合格後の 3 種類の進路について報告した。佐々木ほか (2013) はそれに先立って行われた国際厚生事業団の調査結果を基に EPA 看護師が抱える困難や課題について言及した。成長に関する研究として, レイヴ&ウェンガー (1991) は, ある実践共同体において, 新参者が熟達者から仕事を習ううちに一人前になっていく様子を「正統的周辺参加」とした。山田・齋藤 (2009) は, 学習の方向づけを生み出すような構造が病棟にあるならば, 新人は主体的に学習課題を捉え, 実践に参加するようになると述べている。

調査概要と分析方法

本研究は, 2012 年 5 月以降の日本語支援の際, IC レコーダにて録音した全会話 (各人約 60 時間) をデータとしている。そして, エスノグラフィーの手法により, 録音内容を文字化したデータに分析, 考察を加えた。また, 可能な限り, 病院側の教育担当責任者から EPA 看護師に関するデータを得た。

理論的枠組みはレイヴ&ウェンガーの「正統的周辺参加理論」を援用する。調査協力者は実践共同体である病棟での勤務中, 看護師の指導者・同僚, 医師, 患者などとの関係を構築しながら, 遂行可能な業務の範囲を広げ, 十全的参加に向かう努力を続けている。稿者は上述の研究課題にそってこの過程をまとめ, アイデンティティ構築にかかわる箇所を

抽出した。

調査結果と分析

看護師 A, B は母国での 3 年以上の看護師経験, 日本での 2 年以上の看護補助経験もあることから, 自身の中では国家試験に合格後は普通の看護師として働くことができると考えていた。一方, 指導者は両名の業務範囲を広げることには慎重であり, 懸念材料として日本語能力, 専門知識, 業務能力の不足を挙げていた。

A は「人のために貢献する自己」の実現を目指し, 努力を続けたが「任されない」ことから自己の存在意義を否定し, 病棟内で疎外感を持った。しかし, 日本語能力, 知識・技能の向上とともに遂行可能な業務範囲を広げ, 自信と前向きな姿勢, 働ける喜びを改めて獲得した。一方, B は母国の家族のために自らの存在意義を常に実感し, 励み続けた。さらに, 病棟の危機的状況に病棟の一員として責任と新たな存在意義を感じた。

考察

EPA 看護師の十全的参加への過程を促進, 阻害した要因は多数あった。それらを獲得, 排除しながら調査協力者は成長した。それは本人らの力だけによるものではなく, 周囲の人々に叱咤激励され, 周囲の人々をも変容させつつ, 進んだ日々であった。

稿者の知る EPA 看護師 (候補者) は総じて真摯に業務, 学習に励んでいる。彼らの意欲をそぐ待遇は賢明ではない。意欲を尊重しつつ, 日本の医療基準を満たす知識・技能を習得させ, 適切な遂行業務を与えることにより, EPA 看護師は十全的な「日本の看護師」への成長の道をたどると思料する。

おわりに

外国人看護師を受け入れるには, 日本語教育が欠かせない。来日前に十分な教育をすることにより, 入国後の就労, 国家試験準備の学習などの困難点が軽減されるだろう。また, 合格後, 長期的に日本で看護師として勤務できる状況を整えることも必要であり, その方策を考えねばならないであろう。

参考文献, Web サイト

- 浅井亜紀子, 箕浦康子, 宮本節子 (2013) 「日本体験とキャリア形成-EPA 看護師の5年間の追跡から-」 142-143.
- 安里和晃 (2012) 「EPA は介護, 看護現場を変えたか」『POSSE』 16 pp.141-153 堀之内出版
- アルバート・バンデューラ (1997) 『激動社会の中の自己効力』 金子書房
- 石鍋浩 (2012) 「漢字親密度から見た看護師国家試験出現漢字の「難解さ」の評価」『第14回専門日本語教育学会研究討論会誌』 13-14.
- 岩田一成, 庵功雄 (2012) 「看護師国家試験のための日本語教育文法 必修問題編」『一橋大学紀要 人文, 自然研究』 第6号 56-71.
- 岡田朋美, 宮崎里司 (2012) 「EPA 看護師の国家試験合格後の課題—国家試験後の日本語支援者の役割とは—」『2012年度日本語教育学会春季大会予稿集』 223-228.
- 川口貞親 (2009) 「日本, フィリピン, インドネシアの看護教育カリキュラムの比較」『九州大学アジア総合政策センター紀要』 3 91-104.
- 佐々木倫子・石井千晴・奥島美夏 (2013) 「EPA 看護師受け入れの課題と展開」『2013年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 107-118.
- 下野恵子, 大津廣子 (2010) 『看護師の熟練形成』 名古屋大学出版会
- 田尻英三 (2011) 「看護師国家試験の漢字, 漢語」『国文学解釈と鑑賞』 2011年1月号 pp.108-115
ぎょうせい
- ダニエル・コスト, ダニエル・ムーア, ジュヌヴィエーヴ・ザラト (姫田麻利子訳) (2011) 「複言語複文化能力とは何か *Compétence plurilingue et pluriculturelle* (Traduction en japonais)」『大東文化大学紀要〈人文科学編〉』 第49号 249-268.
- 布尾勝一郎 (2011) 「海外からの看護師候補者に対する日本語教育」『日本語学』 2011年2月号 pp.18-28 明治書院
- 増田光司, 佐藤千史, 中川健司, 隈井正三 (2006) 『留学生のための二漢字語に基づく基礎医学術語辞典』 凡人社
- 箕浦康子 (1999) 『フィールドワークの技法と実際-マイクロ, エスノグラフィー入門-』 ミネルヴァ書房
- 山田香, 齋藤ひろみ (2009) 「新人看護師が臨床現場において一人前の看護師になるまでの学習過程—正統的周辺参加論(LPP)の視点から—」『山形保健医療研究』 12 75-87.
- 和田攻, 南裕子, 小峰光博 (2010) 『看護大辞典 第2版』 医学書院
- Lave, Jean & Wenger, Etienne. (1991) . *Situated Learning-Legitimate Peripheral Participation*, Cambridge: Cambridge University Press. (ジーン・レイヴ, エティエンヌ・ウェンガー 佐伯胖訳 (1993) 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』 産業図書)
- 奥島美夏 (2011) 「インドネシア・フィリピンの看護教育・資格制度・海外派遣の概要」 「第2回「看護師国家試験における母国語・英語での試験とコミュニケーション能力試験の併用の適否に関する検討会 (奥島委員資料)」 厚生労働省
www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001ycxb.html (2013.10.12)
- 厚生労働省 「新人看護職員研修ガイドライン」
www.mhlw.go.jp/shingi/2010/01/dl/s0127-11a.pdf (2013.7.2)